



常翔学園創立 100 周年記念コンサート

「おかあさんの被爆ピアノ」上映と 被爆ピアノとふれあう会 in 常翔ホール

「映画鑑賞」と「被爆ピアノとふれあう会」



本物の被爆ピアノが舞台に登場！
さらに：この映画のモデルとなった
調律師の矢川光則氏のトークも必聴！

© 2020 映画「被爆ピアノ」製作委員会

配給・宣伝：新日本映画社 2020年/日本/DCP/カラー/ステレオ/アメリカンビスタ/113分/G hibakupiano.com

2022年1月29日(土) *open* 12:30 *start* 13:00

(16:30 終演予定)

「映画鑑賞」

「被爆ピアノとふれあう会」

どちらも**参加費無料**♪

《常翔学園創立 100 周年記念コンサート 詳細》

<https://www.josho.ac.jp/100th/event/>



大阪工業大学 社会学連携内 常翔ウェルフェア 梅田事務室

【電話番号】06-6147-6269 (受付時間 10:00 ~ 17:00 [月~金])

【メール】jw_umeda_100th@joshowelfare.co.jp

100年、
飛翔のキセキ

時代と次代が求める人づくり

日本・大阪の近代化が進む1922年に、
専門技術の修得を志す多くの若者たちに分け隔てなく「学び」の門戸を開いたことから、
学校法人常翔学園の歴史は始まりました。
これからも、「時代」のニーズに応え、「次代」を創る人材を社会へ。
2022年10月30日、学校法人常翔学園は創立100周年を迎えます。

学校法人 常翔学園
Josho Gakuen

【設置学校】大阪工業大学、摂南大学、広島国際大学、常翔学園中学校・高等学校、常翔啓光学園中学校・高等学校



大阪工業大学 梅田キャンパス
OIT 梅田タワー 常翔ホール
大阪市北区茶屋町1番45号

今後の新型コロナウイルス感染症の状況等により、イベント内容・時間などの変更または中止する場合がございます。

被爆ピアノ

広島に投下された原爆の爆心地から2キロほどの至近距離で被爆したピアノのこと。出来るだけ元の部品を生かして調律され、命の大切さを奏でる平和の音色として現役で活躍している。現在、矢川氏の経営する矢川ピアノ工房では6台所有している。(2020年5月現在) 全国1500箇所以上の各地で音色を披露してきたが、その活動は国内だけにとどまらず、2010年にはニューヨークまで渡った。また、2017年12月12日には、ノルウェー・オスロ郊外で行われたノーベル平和賞受賞者を讃える恒例の「ノーベル平和賞コンサート」にて披露・演奏され、力強いピアノの音色に大きな拍手が送られた。



Story

昭和20年8月6日に広島で被爆したピアノを持ち主から託された調律師・矢川光則。彼自身も被爆二世。爆心地から2キロほどの至近距離で被爆したピアノを矢川は修理、調律して、それを自ら運転する4トントラックに載せて全国を回っている。東京で育った江口菜々子(20)は大学で幼児教育を学び将来幼稚園教師を目指しているものの将来について漠然としている。菜々子は、被爆ピアノコンサートの情報を偶然知り、調べると被爆ピアノの一台を母・久美子が寄贈していることを知り、コンサートを観に行く。そこで矢川と出会い、日本各地を回って「被爆ピアノ平和コンサート」活動が続いていることを聞きながら、菜々子は傷ついたピアノを触り、鍵盤を弾いてみる。しかし、音が綺麗に出ない。ピアノと今の自分の心境を重ねる。被爆二世の母から広島のことや音楽講師をしていた祖母・千恵子のことなどを知らされてこなかった。菜々子は祖母のこと、広島のこと、被爆ピアノのことを知りたくなり調律師に頼んで広島までトラックに乗せてもらって同行する。広島に着くと、2年前に他界した祖母・千恵子が住んでいた母の実家はそのままにされており、間もなく再開発で壊されると叔父から聞かされる。今も家にある写真、古い楽譜などから祖母のことを辿っていく。そうすると、菜々子が5歳の頃に千恵子に可愛がってもらった記憶が蘇る。でもなぜかそれ以降の祖母の思い出が思い出せない…。母はどうして広島から出て行ったのか?祖母が菜々子に伝えたかったことは?と自分のルーツに関する謎が深まるばかりだった…。菜々子は矢川とともに、被爆ピアノの活動に同行することを通して自分のルーツを巡り、次第に何かを見つけていく…。そして、8月6日に平和記念公園の片隅にある被爆アオギリの前でコンサートをやると聞き、自分もピアノを演奏すると決意するが…。

Cast&Staff

矢川 光則 【調律師】

1952年、広島県生まれ。ピアノ調律師。18才で上京した後、大手ピアノメーカ等の勤務を経て、1993年に生まれ育った広島で、ヤガワ楽器調律センターを開業。1995年にピアノ工房の建設を機に古いピアノの再生を行い福祉施設等への寄与をする奉仕活動を開始。2003年、ピアノ贈呈数が115台となり、広島市民表彰(市民賞)受賞。その奉仕活動中に「被爆(ひろしま原爆)ピアノ」と出会い2001年より平和記念公園でコンサートを始め、現在は全国で「被爆(ひろしま原爆)ピアノ、平和コンサート」を行っている。また、2021年7月に私財を投じて、修復した被爆ピアノを展示する「被爆ピアノ資料館」を開設した。

五藤 利弘 【監督・脚本】

日本テレビ「news every.」「きょうの出来事」「NNドキュメント」フジテレビ「NONFIX」「ザ・ノンフィクション」などテレビ番組の企画・構成・演出・プロデュースや劇場用映画の脚本・演出を担当。2009年自身の企画『モノクロームの少女』を映画化、脚本監督担当。公開後も各地映画祭で招待上映。2012年監督脚本作『ゆめのかよいじ』公開。ハンブルク日本映画祭招待上映。2017年監督脚本作『レミングスの夏』が函館港イルミネーション映画祭にて観客賞グランプリ受賞。2020年監督脚本作『おかあさんの被爆ピアノ』全国順次公開。第38回日本映画復興奨励賞受賞。現在も各地で上映が続いている。2021年栃木県鹿沼市発信の『ほうきに願いを』監督脚本。

